

NO. 173

全 仏

1 / 47



(初詣で賑わう浅草寺)

昭和47年1月1日

経済大国に相應するもの

全日本仏教会会長
大本山総持寺貫首

岩 本 勝 俊



今回図らずも全日本仏教会会長に就任することになり、顧みてその責務の重大さを感じる次第であります。わが国も、終戦後まさに三十年に垂んとし、産業の勃興は目覚しく、延いて通商貿易の発展亦華々しいものがあり、国土の繁栄、国民生活の向上に寔に驚歎すべきものがある。されば、わが日本は今や世界の各国から、所謂経済大国として見られているが、これを果してその俛受け取って樂觀出来るかは大いに疑わしい。そうでなく、真に安心して列強の間に伍して行くには国民の精神面、国家の文化面がこれに相應して、各国から尊敬を払われるに値いするように、精神面の充實強化を招来することである。

それには宗教信仰の上からも、また倫理道徳の上からも種々の方法があり、実践があることは勿論である。従って、広く国民全般より全人類に仏教精神を普及す

るように献身的に努力することが、吾々仏教徒たるものの使命であり責務であると考える。すなわち正法日本の建設であり正法世界の實現である。

その結果、人命殺戮の殘虐行為も無く、反道徳的な過激な行為も滅り、さらには人々が和合し協調し平和に繁栄する社会が出現し、この地上そのままが寂光浄土となる。この人心の和合、社会の康寧はすなわち人類の共存、世界の平和をもたらすことになり、そこには惨忍なる核兵器への恐怖も無く、人類は安堵して、この生存を全うし、その文明を維持することが出来る。したがって私共仏陀の教説を信奉する者は国民大衆は固より世界の人類に仏教が普及徹底し、その行法が実践されるように教化氣動の活発にして、その使命完遂に邁進すべきであります。

斯くて、ここに新しく迎えんとする一九七二年すなわち昭和四十七年度は明るく和かに清らかな年となるように念願して己まない次第である。

それ故に、全仏教界の各寺院、各教団若しくこの点に一般の自覚をふかめて静かな日本、和かな世界の具現に一致協力して経済大国日本が変じて精神大国、宗教大国と化し、名実ともに世界の指導者、人類の愛護者として世界の平和に貢献し、人類の幸福に奉仕することこそわれわれに課せられた重大な責務であります。

年頭に当り所懐の一端を披瀝して賀辞とする。

謹賀新年

財団法人

全日本仏教会

会長 岩本勝俊
副会長 梶浦逸外
理事長 金子日威
常務理事 星谷縁

理事

奥野覚 岡野正
積山秀 岡中道
築村定 藤田順
野村宗 伊藤雄
工藤義 山田哲
江藤寛 渡部道
若山俊 渡部允
栗本亮 大石泰
田中亮 大石泰
村瀬良 山本平
松本徳 山本平

理事

南谷恵 清水尚
立部瑞 味岡良
村上貫 鈴木悟
山中浩 神村底
後藤憲 杉正己
中藤通 杉正己
黒山白 倉持義
熊野龍 倉持義
木野宣 土田也
間野敬 奥田也
蒲池繁 中野理
竹村吉 中野理
石衛門 中野理

監事

久保塾太清
船口暉子

全仏躍動の年に

全日本仏教会理事長 星 谷 慶 縁



新春を迎えるにあたり、心から慶賀の意を表し、各位の御健勝を祈念するとともに、激動期にある内外の諸情勢に対処

し、あやまりなきを期してまいりたいと存じます。

昨年十二月、全仏の役員任期満了にともない各位の御推挙により不肖私が理事長に就任させていただきましましたことは、まことに光栄至極に存じております。しかしながら生来浅学非才しかも宗派の責任者として十分にその責務を全うすることが果して出来るかいなかを非常に憂慮しておりますが、幸い新会長に曹洞宗宗長岩本勝俊殿下をいただき、さらに各位の温い御支援によってこの重大なる責務を全うしてまいりたいと念願しております。

仏認

全第3種郵便物認可

申すまでもなく全仏は、わが国における唯一の仏教連合機関であり、その伝統も古く、明治中期に仏教連合会として発足し、幾多の変遷を経て今日の全仏となったわけですが、とくに本年は財団法人として設立以来満十五周年を迎えたのであります。

この記念すべき歳にあたりいよいよ全一仏教運動の理念のもとに各宗派、各団体が相協力し、仏陀の教えのものと結集し仏教の宣揚と、愛される仏教会に脱皮してまいりたいと存じます。

さらに本年五月には第十回世界仏教徒会議がセイロ

ン国の首都コロンボ市において開催されますが、激動する国際情勢にあつて日本仏教のもつ役割もまた重大であると思ひます。

また国内的には、本年九月に青森県仏教会が当番県となつて第二十回全日本仏教徒会議が開催されます。

私がかつて石川県仏教会長の時代に金沢大会が開かれ、各宗本山の持廻りから府県仏が担当した初回であります。この大会を開催することによってそれぞれの府県仏が組織強化され、教財ともに向上しているようでありますがまことによきことばしいことでもあります。

そのほか仏教文化会議をはじめ幾多の事業を強力に推進することが全仏に課せられた使命であると確信します。

最後にもっとも重要な案件は、昨年八月に答申された全仏の制度機構の改善であります。前理事長の御苦勞を引きつぎ、ぜひ早急に処理していかねばなりません。

これらの問題に対しては、よく検討し実情に即して全仏発展のため善処してまいりたいと存じております。

全仏は、全仏を愛し、全仏を愛する人々によって成立し、動かされていくものであることはいうまでもありません。すべての声を謙虚に傾聴し、各位とともに全仏運動に邁進したいと念願するものであります。

各位の一段の御協力を切にお願い致します。

(大谷派宗務総長)

事務総局

- 事務総長 麻布 照海
- 局長 桜井 大乗
- 部長 榊淵 正浩
- 小沢 照禧
- 柳 新聞
- 伊東 了堅
- 阿部 堅純
- 頭瑞 了堅
- 職員 黒川 孝樹
- 同 阿部 頭瑞

関西事務局

- 事務総長 鶴 銅隆 玄
- 部長 二本松聖順 奥 博良
- 岸本 賢祐 加納 宗准
- 職員 一同

新発売 安全焼香台 (屋内用)

線香 (ローソク) 完全燃焼器 (墓地用)

お寺を火災から守りましょう!!

線香 (ローソク) 完全燃焼器、(墓地用)でお寺も檀家もみんな揃って一安心! 安全焼香台 (屋内用) もあります。
製法 実用新案公告 34188号
製品 実用新案特許 出願受付昭46-92325号
ご一報下されば直ちにカタログご送付致します

特約店募集中

(〒460) 名古屋市中区大須三丁目39番33号

全国総発売元



合資会社 梅金商店

TEL 名古屋 <052> 241-0901代

全仏新役員決まる

本会の役員任期満了にともなう役員改選のため、去る十二月七日午後一時より、浅草東京本願寺記念館に於て評議員会を開催し、会長に岩本勝俊現下（曹洞宗管長）を、副会長には梶浦逸外現下（臨濟宗妙心寺派管長）、金子日威現下（日蓮宗池上本門寺貫首）を推戴した。また、理事四十五名を選出し、星谷慶縁大谷派宗務総長が理事長に就任した。

また十二月十六日に開催された常務理事会において、事務総局事務総長に麻布照海師（本願寺派）が決定された。任期はいつれも二年である。

評議員会は、出席者四十二名、委任状六十二名をもって開催され、まづ議長に木辺宣慈師（滋賀県仏会長）を選出、議事録署名委員に熊野竜夫師（千葉県仏理事長）来山泰竜師（妙心寺派）を選出して議事にうつった。

まづ、理事及び監事の選出について、議長提案により選考委員十一名を指名（若山、北岡、田中隆、伊藤勝、北島、来山、永見、東、木辺、伊藤哲、稲田）し、選考の結果、今回は県仏育成の為県仏より理事三名を増員し、全理事四十五名のうち常務理事二十一名）を選出した。監事には、久保基太清師（豊山派）船口暉子氏（全日仏婦）を選出し（監事一名は欠員保留）、それぞれ満場一致承認された。ひきつづき理事会を開催し、会長、副会長を推戴、理事長に星谷慶縁師を互選し、それぞれ評議員会に於て承認された。新役員は下記の通りである。

- 副会長 梶浦逸外現下（妙心寺派管長）
 " 金子日威現下（池上本門寺貫首）
 理事長 星谷慶縁（大谷派宗務総長）
 事務総長 麻布照海（本願寺派）
 常務理事（評議員中の○印）
 理事（評議員中の○印）
 評議員
- 奥野覚応（天台宗）
 - 山田定恵（"）
 - 中村義心（"）
 - 北岡守祐（"）
 - 山本光照（天台寺門宗）
 - 千村実宣（天台真盛宗）
 - 南谷恵澄（和宗）
 - 吉田秀映（"）
 - 塚原徳応（"）
 - 青木法鷹（妙見宗）
 - 岡野正道（孝道教団）
 - 椎谷 健（"）
 - 四宮正吾（"）
 - 清水谷孝尚（聖観音宗）

- 大森亮湖（"）
- 塩入亮達（聖観音宗）
- 釈 秀伝（高野山真言宗）
- 島田信了（"）
- 麻生恵光（"）
- 寿山良知（"）
- 山本芳邊（"）
- 未定（真言宗東寺派）
- 森岡善暉（真言宗泉涌寺派）
- 川原快俊（真言宗山階派）
- 立部瑞祐（真言宗御室派）
- 味岡良戒（真言宗大覚寺派）
- 未定（真言宗）
- 田中隆恵（真言宗智山派）
- 別所弘因（"）
- 板橋宥成（"）
- 裨貫照澄（"）
- 築山定督（真言宗豊山派）
- 浅井堅教（"）
- 永見聖宏（"）
- 久保基太清（"）
- 岩堀至道（新義真言宗）
- 稲岡寛順（浄土宗）
- 野村宗春（"）
- 吉井泰順（"）
- 水谷激道（"）
- 梶原重道（"）
- 大野忍敬（"）
- 長谷川岱祐（"）
- 滝沢教夫（"）
- 松田法全（浄土宗西山深草派）
- 久我傲雄（浄土宗西山禅林寺派）
- 保田純精（西山浄土宗）
- 脇田元心（"）

- 太田淳昭（浄土真宗本願寺派）
- 阿部慶昭（"）
- 村上貫之（"）
- 工藤義修（"）
- 岡部崇宣（"）
- 永野鎮雄（"）
- 高辻恵雄（"）
- 北島経昭（"）
- 星谷慶縁（真宗大谷派）
- 鈴木 悟（"）
- 遠藤合一（"）
- 旭野正信（"）
- 中山尊照（"）
- 加納宗准（"）
- 伊藤哲雄（"）
- 柳 了堅（"）
- 山中浩文（真宗高田派）
- 森 閑竜（"）
- 千葉操亮（真宗興正派）
- 渋谷憲雄（真宗仏光寺派）
- 未定（真宗三門徒派）
- 楠 法隆（真宗出雲路派）
- 未定（真宗山元派）
- 波多野曉浄（真宗誠照寺派）
- 未定（真宗木辺派）
- 石倉一光（時宗）
- 栗山良全（融通念仏宗）
- 江西寛堂（臨濟宗妙心寺派）
- 後藤純一（"）
- 服部宗源（"）
- 野口浩堂（"）
- 来山泰竜（"）
- 神村拙底（臨濟宗建長寺派）

- 井上禪定 (臨濟宗円覚寺派)
- 後藤憲藏 (臨濟宗南禅寺派)
- 吉川探道 (臨濟宗永源寺派)
- 佐分春心 (臨濟宗相国寺派)
- 田原周仁 (臨濟宗大竜寺派)
- 石馬研学 (臨濟宗同徳寺派)
- 山田義道 (曹洞宗)
- 朽木正巳 (〃)
- 金子宗一 (〃)
- 若山連法 (〃)
- 岡田巳成 (〃)
- 阿部博邦 (〃)
- 山崎秀明 (〃)
- 田中亮三 (〃)
- 中山通藏 (黄檗宗)
- 渡部公允 (日蓮宗)
- 三井宣雄 (〃)
- 伊藤勝淳 (〃)
- 関 観康 (〃)
- 三瓶顕厚 (〃)
- 丸山日雄 (〃)
- 福島泰信 (法華宗本門流)
- 水本大岳 (法華宗陣門流)
- 笹木日靖 (法華宗真門流)
- 未定 (中山妙宗)
- 木村日玄 (本門仏立宗)
- 古瀬堅徳 (顕本法華宗)
- 未定 (律宗)
- 喜多亮快 (真言律宗)
- 未定 (法相宗)
- 柘田秀山 (聖徳宗)
- 清水公照 (華嚴宗)
- 未定 (北海道仏教会連盟)
- 東 義寿 (青森県仏教会)
- 未定 (岩手県仏教会連盟)
- 伊藤哲道 (秋田県〃)
- 板垣隆寛 (山形県仏教会)
- 吉岡棟一 (福島県〃)
- 松浦亮一 (群馬県〃)
- 黒田白純 (栃木県〃)
- 鱒淵正浩 (〃)
- 奥野善雄 (茨城県〃)
- 佐久間鎮雄 (埼玉県〃)
- 倉持秀峰 (〃)
- 栗本俊道 (東京都仏教連合会)
- 松田明道 (〃)
- 郡司博道 (〃)
- 熊野竜夫 (千葉県仏教会)
- 貝山宣泰 (神奈川県〃)
- 鈴木敏範 (〃)
- 土田真也 (新潟県〃)
- 井村胤心 (山梨県〃)
- 未定 (福井県〃)
- 樟原宏朗 (石川県〃)
- 未定 (富山県〃)
- 半田孝海 (長野県〃)
- 田中亮三 (静岡県〃)
- 岩田弘徳 (〃)
- 大石好文 (岐阜県〃)
- 村瀬良彦 (愛知県〃)
- 原 浩 (〃)
- 池田泰道 (和歌山県〃)
- 高島広勝 (三重県〃)
- 木辺宣慈 (滋賀県〃)
- 奥 博良 (京都府〃)
- 間野敬重 (大阪府〃)
- 中野文門 (兵庫県〃)
- 未定 (島根県〃)
- 未定 (鳥取県〃)
- 未定 (岡山県〃)
- 逢坂恵勝 (香川県〃)
- 未定 (愛媛県〃)
- 未定 (高知県〃)
- 大橋寛阿 (徳島県〃)
- 蒲池 繁 (福岡県〃)
- 佐野奎二 (朝日生命仏教研究会)
- 信ヶ原良文 (京都仏教徒会議)
- 壬生照順 (近代仏教研究会)
- 田中香浦 (国柱会)
- 桜井栄章 (国際仏教伝道会)
- 三浦義弘 (真理運動本部)
- 山本 杉 (全日本仏教婦人連盟)
- 船口暉子 (〃)
- 中山理々 (日本仏教青年会)
- 未定 (全日本仏教青年会)
- 古屋道雄 (日本仏教保育協会)
- 林 達声 (日本山妙法寺)
- 吉田秀英 (仏教徒政治同盟)
- 河合智海 (梵人会)
- 未定 (善光寺)
- 小沢省元 (国際仏教興隆協会)
- 竹村吉石衛門 (仏教振興財団)
- 石上慈敬 (東京フデイストクラブ)
- 松本徳明 (学識経験者)
- 監事 久保莖太清 (豊山派)
- 船口暉子 (全日仏婦)

常務理事会

開かる

旧臘十二月十六日、東京本願寺記念館において、新理事長のもと第一回の常務理事会が開かれた。

出席者は、梶谷慶縁、若山連法、貝山宣泰、築山定誉、田中隆恵、山本スギ、栗本俊道、工藤義修、田中亮三、山田義道、伊藤哲雄の各氏。

まず、全仏事務局の人事については、事務総長に麻布照海師(本願寺派善福寺)を決定承認したが、局長四名(大谷派、曹洞宗、浄土宗、日蓮宗)がまだ出そろわないため、局内人事ポストについては理事長に一任され、一月中旬までに決定されることになった。

昭和四十七年度予算案については、諸物価上昇にともなう支出自然増のため、予算増額をしなければならぬという事務局からの要請にもとづき、負担金増額が審議された。その結果、各負担金のうち、従来特別負担金を受け持っている十数宗派に一部増の増額を要請することとなり、来る一月二十四日午前十一時より東京本願寺記念館で開催される評議員会及び理事会において付議、決定されることになった。

昭和47年1月1日

一九七二年のぞむ

若き世代に生きる

支えを

稲岡 覚順

(浄土宗宗務総長)



過激派学生の
狂悪テロが街に
横行している。
その反面ノンセ
クトのヒッピー
族や、ロック族

の氾濫も目に余る。

人間性を喪失して生きる支えを失った若者たちに残された、悲しいハケ口とも言える。この狂った青少年を正常に導き、帰趣を知らぬ若者に、生き甲斐を与えるのが、吾々仏教者の使命である。

然るに既成宗教界は依然として、権眼からさめやらず、仏教会は情性に安住して立ち上りを示さない。

一九七二年の課題は多種多様ではあるが、仏教界が現実相を認識して立ち上り特に若き世代指導の重要性に目をそそぎ仏教を現代に生かし、若者に宗教の門を開き、生きる支えたるべき救いの手をさしよるべきことである。

仏教界各宗各派は夫々の立場において教法宣布の実をはたすは勿論であるが、さらに必要なことは、横に小異を捨てて大同につく、協調の実をはたし、若き世代指導の対策にとりくみ、その積極的実動に入るべきである。

不退転の菩薩行を

岡野 正道

(孝道教団統理)



新年おめでと
うございます。

私は、毎年一月一日孝道山本仏殿で厳修される元旦祭の席上、

本堂から広庭まであふれる信徒さんにとって今年の指針」を口頭で発表解説し、併せて教団機関誌(孝道新聞)に告諭するのを通例としています。『昭和四十七年の指針』

仏勸奉持の菩薩の大使命を自覚し、自ら仏性を磨き、一切衆生の苦を抜き厄を救う 大良導師となるべく精進せよ

世界の情勢はあんとんとして、五濁悪世の世相が諸界に現じ、転変きわまりなき様相を呈している今日は、まさに末法時代であり、また同時に釈尊が説きのこされた真実の教え法華経が、その力を最も発揮する熟益の時代でもあります。

仏勸奉持の菩薩たる私たちは、その秘めていたる力を、惜しむことなく今生に發揮すべきであります。そのためには、まず、自から諸仏の秘密の法に深く入り、仏性を磨き、真理にたがわない立派な日常生活をたもつと同時に小さな我を捨て一切衆生の苦を抜き、厄を救い得る、大良導師になるよう、勇猛精進すべきであります。年頭にあたり、皆さまと共に不退転の菩薩行を誓い合いたいと思います。

仏教は強き平願を

東 義 寿

(青森県仏教会長)



印パの戦闘も意外に短時日の間に停戦を見て世界の人々殊に私共仏教徒はホット安堵の思い

であります。昔から日本人に印度はお釈迦さまの国として、何か血の通うような親近感を持っておりまして、今度は印度かと心の痛む思いでした。人は自然の温かい懐に安住して、充分の理性を持ちながら、どうしてかくも鬭争と殺戮をくり返さねばならぬのか、人間業の悲しさを

賀正

真言宗 智山派
総本山 智積院

京都市東山区東山七条
〇七五(五)五三六(四)

化管 主長 竹村 教智

宗務総長 田中 隆恵
寺務長

法務部長 西田 隆演

教化部長 松平 実禅

総務部長 別所 弘因

教学部長 高井 隆秀

宗務出 張所長 小宮 勝憲

あわれさ、やるせなさ、戦火に追われ多数の家族を失った私たちには今なお堪えられぬ思いであります。

それにつけても、大自然の「生命への配慮のすばらしさ」、自然は蟻一定のいのちも粗末にはいたしません。稲の花一茎の生命も大切にしてくれます。雨一つを降らせるにも、千尺の天上からあの細かい小粒にして生物を育ててくれます。

一事は万事、行きどいいた「自然の配慮」私は嘗て洪水の直前に土手下の田畝から赤蟻の大群が堤の岸辺を、一本の帯状をなして丘の草原に移動しているのを見ました。昼夜分たず無数の蟻の大移動、いかなるリーダーがあつて、かかる行動を起すのか、四、五日後蟻の姿の消えた日に、豪雨警報の発令が来ました。まことに涙溢るる思いでした。

「いろもまします、姿もまします、自然の料を知らせんために阿弥陀とならせ玉へるおすがたなり」と、また、「仏に従って逍遙して自然に帰る」と、私共は謙虚にこの原点に立帰って、せめては「殺戮なき世界」を目指して、積尊の悲願を果したい。

「願求なきは菩薩の魔事とか」「衆生無辺誓願度」いま一度世尊と俱に叫びたい思いであります。妄言多謝。
○おねがい

全 3 種郵便物認可
本年度、第二十回全日本仏教徒会議は全仏の御指導と、皆さまの御支援により今秋九月二十八日、九日の両日、青森県大会と決定いたしました。県都青森市を会場と

して開催の運びとなりました。本土「さいはての地」に各宗の諸大徳並びに全国の仏弟をお迎えすることは、末世の現代に世尊の教団をお迎えする思いであります。特別の設備もございませんが、観光の資源も豊かで、自然のままの自然と素朴な人情とで、皆さまの御参加を心からお待ち申し上げております。

密厳仏国土を目標

として

築山 定誓

(豊山派宗務総長)

昨年は国の内外を問わず対立動乱の相を呈したが、特に国内における価値観の対立相剋は、最早、断絶という表現では済まされぬ状況に落ちこんだようにすら思われる。これらの現象を解明して、その欠陥の根本を教育に求め、政治経済の機能に求めている向が多いが、宗教の負うべき社会的機能については比較的論及されていない。私はこの社会的混乱状態を凝視して、宗団の動向を追求してゆきたい。わが宗派は、密厳仏国土という理想社会の開頭を究極の目標として布教活動を展開している。宗祖弘法大師の行履に鑑みて宗団が現代に如何に機能すべきかを求め実践してゆきたい。

時、幸にも、昭和四十八年は宗祖降誕一千二百年に相当する。本年はその記念事業の実施準備にも精進し、宗祖大師諡

仰の波を高めてゆきたい。

インド流入東パキスタ

ン難民救援金感謝録

(第二次分・十二月二十七日現在)

(敬称略)

- 一、金五千元 新義真言宗務所
- 一、金参万円 隣山会
- 一、金壹万円 愛知学院
- 一、金貳千四百拾六円 同朋高等学校
- 一、金参千円 平林寺
- 一、金壹千円 浄光寺
- 一、金五千元 徳島県仏教会
- 一、金壹万円 室生寺
- 一、金九千六百五拾二円 高野山高専学校
- 一、金壹万円 西教寺
- 一、金参千円 藤原了然
- 一、金五万円 曹洞宗宗務庁
- 一、金壹万四千参百参拾円 千代田学園
- 一、金貳万円 天台宗務庁
- 一、金貳万六千七百貳拾五円 愛知高等学校
- 一、金貳千円 龍谷大学
- 一、金四万六千元 顕本法華宗務院
- 一、金参千円 毛越寺
- 一、金壹千参百円 光華女子大
- 一、金四千六百六拾四円 華頂短大学生会
- 一、金貳千六百八拾八円 鶴見女子大
- 一、金壹万五千貳百七拾六円 華頂女子高等学校生徒会
- 一、金壹万貳千参百四拾貳円 東海女子高等学校生徒一同

頌 春

浄土宗 知恩院
総本山 京都市東山区林下町

門主 岸 信宏

執兼庶務部長事務管掌 鶴飼 隆玄
法務部長執事 立松 法律
兼開八法要部長執事

布教部長執事 無垢品導生
護持信徒部長執事 鈴木 錦承

会館部長執事 二本松聖順
財務部長執事 松川 嶺純

綜合企画担当 白幡 憲佑
兼開八企画部長執事
公室勤務執事 谷地 益雄

施設事業部長執事 三宅 勇誠
守廟長執事 赤木 定順

浄土開宗八百年記念慶讃事務局

事務局長執事 藤田 説量

事業部長執事 野中 純道

庶務部長執事 赤平 昌導

経理部長執事 梶原 隆也

恭賀新春

第十九回 全日本仏教徒会議 四国大会

会 長 (香川県) 逢坂 恵勝
 副 会 長 (高知県) 横山 文秀
 (徳島県) 大橋 覚阿
 (愛媛県) 丹下 英照
 (香川県) 大石 黙宗
 (香川県) 松下 教道
 実行委員長 (香川県) 佐々木円純
 副委員長 (高知県) 島田 信保
 (徳島県) 本龍 仙真
 (愛媛県) 明 諦賢
 (香川県) 福村 禅教
 (香川県) 時枝 実三
 事務局 山本 健史
 財務部長 (香川県) 上野 史紀
 香川青年部部长 大仏 光良
 檀信徒会会長 大庭 哲夫
 事務局関係者一同
 事務局
 高松市厨町一丁目 常福寺中

岡山県仏教会

会 長 高峰 秀海
 副 会 長 松永 大俊
 事務局
 岡山市平井七〇九
 岡山(77)八三〇二
 佐々木尚範

新潟県仏教会

会 長 土田 真也
 副 会 長 井上 憲司
 事務局
 豊田 良瑠
 西塔 政舜

曹洞宗

大本山 永平寺

京都府仏教会

会 長 平野 竜法
 理事長 奥 博良

浄土宗宗務庁

宗務総長 稲岡 覚順
 教学局長 吉井 泰順
 総務局長 水谷 激道
 宗務支所長 野村 宗春
 教化部長 山口 諦存
 学事部長 加古 善広
 庶務部長 真柄 大真
 財務部長 松平 智禅
 浄土宗開宗八百年記念慶讃準備局
 局長 梶原 重道
 企画部長 飯田 信弘

恭賀新春

真言宗豊山派宗務所

文京区大塚五―四〇―一八
〒112 (九四五) 〇六三九(代)

管 長 平 林 宥 高

宗務総長 築 山 定 誉

総務部長 浅 井 堅 教

教化部長 高 山 宥 進

教務部長 永 見 聖 宏

財務部長 久 保 埜 太 清

日蓮宗宗務院

宗務総長 渡 辺 公 允

大阪府豊能郡
能勢町野間中七一八

妙見宗宗務本庁

電話〇七二七(37)〇〇二八

臨濟宗南禅寺派

管 長 柴 山 全 慶

宗務総長 後 藤 憲 巖

教学部長 成 松 憲 道

法務部長 直 山 元 貞

財務部長 中 奥 宗 寿

庶務部長 三 木 窓 外

黄檗宗

大本山 萬 福 寺

管 長 加 藤 慈 光

宗務総長 森 本 三 鎧

新義真言宗宗務所

總 長 岩 堀 至 道

総務部長 橘 純 雄

法務部長 星 慶 岳

謹賀新年 昭和四十七年

真宗大谷派

管長 大谷光暢

宗務総長 星谷慶縁

参務 鈴木悟

参務 中山尊照

参務 遠藤合一

参務 旭野正信

総務部長 加納宗准

東京都仏教連合会

会長 栗本俊道

常務理事 一同

事務局

北区西ヶ原三十二二十六
昌林寺内
〇三(95)二五七〇

浦和市高砂四丁目一三一八
財団法人 埼玉県佛教会

会長 倉持秀峰

副会長 佐久間鎮雄

石塚大喜

事務局

電話〇四八八(61)二二三八

栃木県仏教会

宇都宮市材木町観専寺内

会長 黒田白純

理事長 鯨淵正浩

東京本願寺

台東区西浅草一ノ五ノ五
(43) 九五一一

住職 大谷光紹

輪番 伊藤哲雄

静岡県仏教会

磐田市城之崎福王寺内

〒438 磐田(2) 五三三八

会長 田中亮三

青森県仏教会

会長 東義寿

東海銀行

頭取 三宅重光

副頭取 近藤豊平

専務取締役 谷信一

謹賀新年 昭和四十七年

曹洞宗宗務庁

管長 岩本 勝俊

宗務総長 山田 義道

参 議 福山 忍裳

参 議 宮前 鳳洲

総務部長 朽木 正己

教化部長 金子 宗一

財務部長 若山 運法

教学部長 岡田 己成

社会部長 阿部 博邦

秘書室長 山崎 秀明

広報室長 田中 亮三

財団法人

全日本仏教尼僧法団

総 裁 大宮 智栄

理事長 北川 教全

役員 一同

〒160 新宿区大京町三十一
慈母会館
(33)〇四二一四

財団法人

国際仏教興隆協会

理事長 巖谷 勝雄

役員 一同

〒153 目黒区中目黒五十二四一五三
祐天寺内 (11)七六〇八

財団法人

日本仏教鑽仰会

理事長 中山 理々

北区赤羽台三二四一
二 赤羽 法善寺内
(90)二三四一

事務所

千代田区内神田二一三一五
鎌倉ビル内 (256)四九一一

社団法人

全日本仏教婦人連盟

会 長 大谷 智子

副会長 一条 智光

理事長 山本 スギ

事務局長 船口 暉子

世田谷区椚上水四ノ九ノ七

孝道教団

孝道山本仏殿

統理・大僧正

仏教哲学博士(セイロン)

名譽哲学博士(中華民国)

岡野 正道

副統理・権大僧正

名譽哲学博士(中華民国)

岡野 貴美子

〒221 横浜市神奈川区孝道山
〇四五(43)一一〇一

孝道教団東北別院

貫主・大僧正

岡野 正道

山形市小白川町釜山

花まつりに統一ポスターを

四月八日を中心とした花まつり行事は年毎に各地で盛んに行なわれていたが、このほど全国に統一されたポスターの頒布を実施することになった。

これは従来、特に昨年、東京都仏教連合会で作製していたものを、一部文字等を変えたもので、カラフルな色彩に荘厳味豊かなものである。

市町村仏教会等の主催される花まつり等に利用して頂きたい。

頒布価格は、一枚五十円 送料別
五枚以上 送料含

主催者団体名の印刷も相談に応じます。

ルンビーニ開発に浄財

東京フティストクラブ

全仏新加盟の東京フティストクラブ(代表石上慈敬氏)では、恒例の成道会チャリティーパーティーを去る十二月十日午後五時より赤坂プリンスホテルに於て開催した。

今回で七回目を迎えたパーティーも年々

哀悼

塩入亮忠師(天台宗探題大僧正・川越喜多院貫主)
旧臘十二月二十三日逝去。八十二歳。

密葬はすでに執り、告別式は来る二月九日午後二時より喜多院にて行なう。師は大正大学長、浅草寺執事長、駒込高校長等を勤めた。

藤井日静師(日蓮宗管長・繪本山身延山久遠寺法主)
十二月二十七日逝去。九十二歳。昭和三十八年より第三十八代日蓮宗管長。同年九月より四十年九月まで、全日本仏教会副会長として尽力された。密葬は一月九日に執行。本葬は未定。

東仏成道会盛ん

救ライ援助も一千万円に

東京都仏教連合会の成道会、第六回お悟りを讃える会が去る十二月八日午後四時半より、目白椿山荘に於て、会員二五〇名余が参加して盛大に催された。式典につづいて、久保田正文立正大教授の講演、兼鴨白泉寺所属の東京城北少年少女合唱団のコーラスがあり、協賛の仏婦山本理事長の乾杯首頭で清餐にうつり、八時ごろ散会した。

席上、東仏各寺で募金した救ライ援助金二五〇万円が栗本会長の手からアジア救ライ協会へ贈呈された。この募金も今年で四回目で、一千万円に達する援助に救ライ協会の代表も感謝の辞をおくっていた。

新年懇親会案内

本会主催の新年懇親会は、来る二十四日(月)芝・東京プリンスホテルで開催される。

恒例になったこの懇親会は、京都と東京と隔年ごとに会場を変えて行なっているが、毎年仏教界関係の政財界人をはじめ各宗各団体の要職人ら多様な顔ぶれである。

日時 一月二十四日(月)午後三時より
会場 東京芝・東京プリンスホテル
サンフラワーホール(二階)

会費 金参千円
出席申込は一月十五日まで全仏へ

* 4月8日はお釈迦さまのお誕生日

花まつり



東京のお誕生日も4月8日

昭和47年 大田道灌・江戸城落式の日

昭和十七年二月一日発行

巻子人 糸市 原 毎

編集人 可部 碩 器

発行所 財団法人

全日本仏教会